TS（トータル・サティスファクション）を目指して　MI8

対話を遮断する言葉、対話に引き込む言葉

校長室担当より

前回は、「叱る」というテーマでお伝えしましたが、意外に難しいのが大前提となる「子どもの信頼を得られる人間になること」だと思います。これは普段の私たちの行動から、いつのまにか彼らの中で作られていくものだからです。そんな行動の中でも特に重要なのが「言葉」だと思います。普段の何気ない会話や対話の中で私たちがどういう言葉を使うかを子どもたちは常に感じ取っています。

例えば、本校では使われていないと考えていますが、教育的な場面でよく使われる次のような言葉は、本校の最上位育成目標である RESPECT（自他を大切にする）＆ SELF－DIRECTION（自分で考えて判断し、主体的に行動する）に基づいた言葉となっているでしょうか。

① 「どうしてできないの！」　→　「（あなたは）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿の？」

② 「何度言えばわかるんだ！」「だから言ったんだよ」　→　「（あなたは）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿の？」

③ 「いい加減、言うことをきいてよ！」　→　「（あなたは）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿の？」

④ 「なぜ、そんなことをした！」　→　「（あなたは）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿の？」

⑤ 「何か不満があるの？」　→　「（あなたは）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿の？」

どれも相手をコントロールしようとする言葉で、対話そのものを遮断してしまいます。では、これをどういう問いかけに言い換えればいいか、ぜひ考えてみてください。まず大人だから、先生だから、親だから偉いということはなく、年齢が低かろうが、未熟さを感じようが、どの子どもに対しても一人の人間として、相手をリスペクトする姿勢は大前提となります。その上で、相手がどういう思いを持っていたのかに耳を傾け、なぜこうなったかを相手自身が理解できるように問いかけることが必要です。ここから初めて本物の対話が生まれてきます。人は急には変われないことも念頭に置いて、信頼できる対等なパートナーとして、相手を見守りつつ対話を重ねていきましょう。（令和７年５月２１日）